

自分の思いや考えと比べながら読もう 「風切るつばさ」

～リレートークをしよう～

三原市立三原小学校 石下佳奈

1 実践の趣旨

4月に実施した標準学力テストの結果はどの領域もほぼ全校平均と同じだった。「読むこと」においては、全国比106と他領域よりも高かった。読解においては、個人差が大きく、作品について内容を読み取ったり、自分の考えを持ったり、自分の考えを表現したりすることが苦手な児童がいる。全体的に読書活動が好きで、好きな本を交換し合い、読書タイムには全員が集中して読書をすることができる。

2 実践の概要

(1) 単元名 自分の思いや考えと比べながら読もう 教材「風切るつばさ」(東京書籍 6年上)

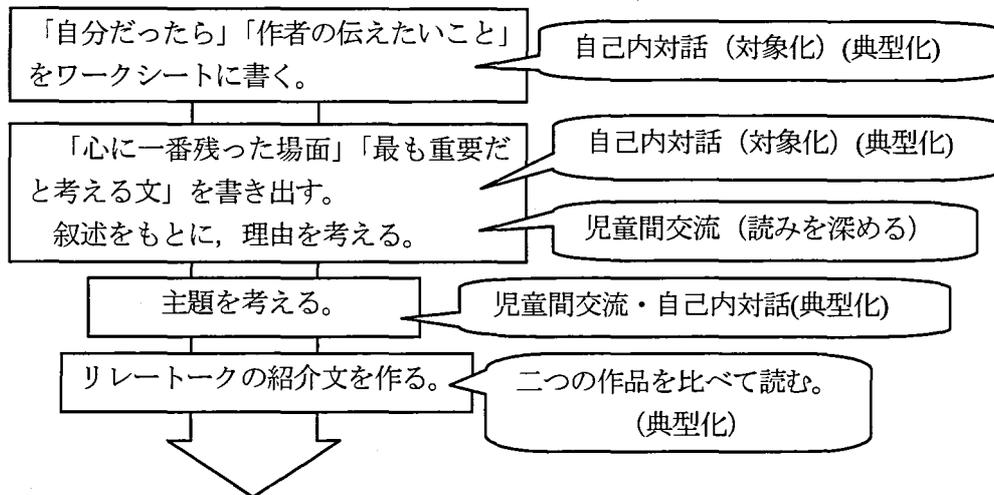
(2) 単元の目標

- 表現を味わいながら、作品に描かれた心情や情景を読み取ることができる。
- リレートークに興味をもち、自分の考えをもってまとめようとしている。

(3) 手立て

- ・登場人物の心情や行動を「自分だったら」「作者の伝えたいこと」の2つの視点から読み深め、ワークシートに記入させる。さらに交流後、自分の読み取りの変容を記入していくことで自己内対話を図る。
- ・リレートークの視点について各自が考えたことを交流することによって読みの深まりを図る。

(4) 指導計画



活動目標

リレートークをする。

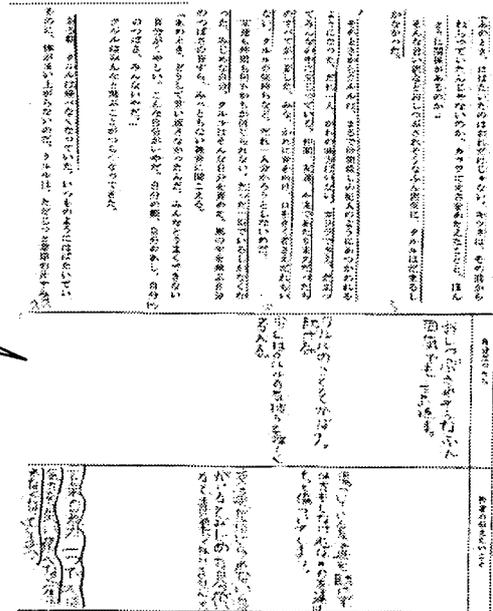
(5) 授業の様子

まず、自分で書き込みをしながら、本文の内容を読み取っていった。そして、それをもとにテーマに沿って交流を行い、読みを深め、さらに自分の考えに返して、つけ加えや考え直しを行っていった。

叙述に対して、自分だったらどうするかという対象化した読みをしていき、記入していった。

「傷ついている友達を助けず、味方もしなければ、その友達はずっときずついてしまう。」「言葉の暴力一つで、人は気力を失い飛べなく(生きられなくなってしまう)。」など、叙述を自分たちの友達関係に反映させて、作者からのメッセージと受け止めて記入している。自己内対話で気がついていなかった部分についても、交流後、つけ加えている。

【児童のワークシート】



【児童のリレートークの紹介文】

「友情」をテーマにしてリレートークをすることで、より様々な形の友情の形を紹介しあった。その友情の形を自分の日常生活や友人関係に返して、振り返る児童もいた。子ども達は本から伝わってくるメッセージをしっかり受け止めて、自分の活動に生かしていた。

<p>2つの作品を比べて</p> <p>この上の作品は、「自分を犠牲にして友を助ける」という所が似ていて見えます。また、その物語の登場人物は自分よりも友のことを考えています。ほくしんは「勇気」と行動がつか出たら良いなと思います。</p>	<p>この作品の登場人物は、自分と似たような人物が出てくる。かま下に「あつた」友達の「あつた」。</p>	<p>作者が作品を通して伝えたいことは、自分もこの作品を通して伝えたいこと。自分もこの作品を通して伝えたいこと。自分もこの作品を通して伝えたいこと。</p>	<p>作者が作品を通して伝えたいことは、自分もこの作品を通して伝えたいこと。自分もこの作品を通して伝えたいこと。自分もこの作品を通して伝えたいこと。</p>	<p>作者が作品を通して伝えたいことは、自分もこの作品を通して伝えたいこと。自分もこの作品を通して伝えたいこと。自分もこの作品を通して伝えたいこと。</p>	<p>作者が作品を通して伝えたいことは、自分もこの作品を通して伝えたいこと。自分もこの作品を通して伝えたいこと。自分もこの作品を通して伝えたいこと。</p>	<p>作者が作品を通して伝えたいことは、自分もこの作品を通して伝えたいこと。自分もこの作品を通して伝えたいこと。自分もこの作品を通して伝えたいこと。</p>
--	--	--	--	--	--	--

自分の行動を振り返りながら、これからの生き方にも返しながら典型化して作品紹介をしている。

3 成果と課題

- 登場人物の「クルル、カララ」と「自分」を対話させながら読み進めていくことで、登場人物の心情にせまることができた。また、「作者の思い」を考えることで情景描写にも目を向けて作品を読み進めていくことができた。
- 「友情」がテーマの本を紹介していく「リレートーク」では、「風切るつばさ」と自分が選んだ本を比べながら読み、お互いに紹介することで、たくさんの友情の形を擬似体験したり自分の友達関係に返したりして典型化の読みを図ることができた。
- 一人読みの学習の時に、「二人の登場人物に同化できない」という児童に対する手だてと、個に応じた指導の工夫が必要であった。